

## 企画セッション

### ◆ 知財部主導の研究開発マネジメントを可能とする実証分析のあり方 ◆

#### 【概要】

エビデンスベースの意思決定が重視される中で、データサイエンスをはじめ、経営判断に資する実証分析の活用はますます広がってきている。知財の分野でも、大量のデータを基に機械学習を活用した分析が増えてきている。

他方で、機械学習による分析は、実態把握や現象の整理・分類には極めて有効であるものの、因果の特定やメカニズムの解明など、仮説検証型の分析を行う上では制約が多いことも指摘されている。これに対し、計量経済学をベースとする実証分析では、仮説の検証を目的として、むしろ因果の特定に力が注がれてきた。

ビジネスにおける意思決定では、早く安く“それなり”のエビデンスが得られれば十分という状況も多いと考えられる。しかし、長期的な観点でマネジメントを見直す場合や、人命に関わるような重大な判断を下す場合、税金を原資とする政策を検討する場合などには、より厳密な分析に基づくエビデンスが必要だろう。

このセッションでは、企業経営に対する知財活動の貢献度をより明確にし、知財部が主導する科学的な研究開発マネジメントを実現するうえでの、実証分析の重要性について議論する。セッションではまず、知財の分野で計量経済学的な実証分析を行っている研究者から、それぞれ利用しているデータや分析手法について解説していただく。それにより、知財部内での実証分析の進め方や、知財部門と実証分析の専門家との連携のあり方についてイメージを共有する。その上で、企業における知財部門のプレゼンスを高める方策について、フロアからの質問もふまえて議論していく。

#### 【パネリスト】 (敬称略、五十音順)

枝村 一磨 神奈川大学 経済学部 助教  
大西 宏一郎 早稲田大学 教育・総合科学学術院 准教授  
蟹 雅代 帝塚山大学 経済経営学部 准教授  
西村 陽一郎 中央大学 商学部 准教授

#### 【モデレータ】

山内 勇 明治大学 情報コミュニケーション学部 准教授

**【パネリスト略歴】**

枝村 一磨

神奈川県立経済学部助教。経済学博士（一橋大学）。東北大学大学院環境科学研究科助手、公益財団法人日本生産性本部主任研究員等を経て、2019年より現職。研究分野は生産性分析、産学連携、環境経済学など。主な論文に「大学における研究推進支援人材が外部研究資金獲得に与える影響」などがある。

大西 宏一郎

早稲田大学教育・総合科学学術院准教授。経済学博士（一橋大学）。知的財産研究所研究員、文部科学省科学技術政策研究所研究員、マックスプランク研究所研究員、大阪工業大学知的財産学部講師・准教授を経て、2018年より現職。研究分野は産業組織論、イノベーションと内発的動機、人事政策など。主な論文に“Graduate education and long-term inventive performance: Evidence from undergraduates’ choices during recessions”(Journal of Economics & Management Strategy)などがある。

蟹 雅代

帝塚山大学 経済経営学部 准教授。経済学博士（大阪大学）。2008年より、帝塚山大学専任講師、2010年より同大学准教授。2013年から2014年までカリフォルニア大学サンディエゴ校 IR/PS 客員研究員。研究分野は、企業経済学、イノベーションマネジメント。主な論文に“Understanding the Technology Market for Patents: New Insights from a Licensing Survey of Japanese Firms”(Research policy)や「企業の競争戦略としての特許利用について—特許統計データを用いた実証分析—」などがある。

西村 陽一郎

中央大学商学部 准教授。商学博士（一橋大学）。2005年より、神奈川大学専任講師、2007年より同大学准教授。2013年から2015年までワシントン大学ロースクール客員研究員。2019年より現職。研究分野は、技術経営論、特許戦略論、ソーシャルキャピタル論。主な論文に“Executive succession: The importance of social capital in CEO appointments”(Strategic Management Journal)や「中小企業における特許保有・営業秘密とパフォーマンスの関係—特許審査請求料・特許料減免制度の非連続性を用いた分析」『日本知財学会誌』などがある。

モデレータ

山内 勇

明治大学情報コミュニケーション学部准教授。経済学博士（一橋大学）。メルボルン大学客員研究員、独立行政法人経済産業研究所研究員、明治学院大学経済学部講師を経て、2019年より現職。特許庁知的財産経済アドバイザー。研究分野は、イノベーションの経済学、知的財産制度の実証分析。

以上